



平成 28 年 6 月 29 日

各 位

上場会社名 株式会社ファーストエスコ
代表者名 代表取締役社長 島崎 知格
(コード番号：9514 東証第一部)
問合せ先 常務取締役 小池 久士
(TEL.03-5299-8521)

栃木県 木質バイオマス発電事業の用地選定について

当社では、本日開催の取締役会にて、栃木県壬生町で、新たに木質バイオマス発電事業を推進することを決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 本件事業推進の経緯

当社は去る平成 28 年 2 月 4 日、栃木県鹿沼市における新たな木質バイオマス発電事業計画を見直し、新たな事業用地の選定を行うことのお知らせいたしました。同事業計画の早期実現を目指し用地の再検討を行った結果、代替計画予定地として今回の栃木県壬生町を選定いたしました。

当初の計画と同様、現在建設中の「豊後大野発電所(エフオン豊後大野)」と同等規模の木質バイオマス専焼発電所を栃木県壬生町に開発するもので、既設の「大信発電所(エフオン白河)」と補完関係を構築することを目指しています。開発に際しては、栃木県を中心とした北関東周辺地域において、木質バイオマス発電に必要な燃料確保が充分に見込まれることを、森林系燃料供給者や、製材系燃料供給者の方々と協議を通じ確認しております。

また、平成 28 年 6 月 3 日に事業主体である「アールイー鹿沼株式会社」が、東京電力より当計画地での「送電系統へ接続可能」という回答を得ております。

以上のことから、本日、事業開発に着手することを決定いたしました。

2. 事業の目的

現在わが国では、原発事故以後の新しいエネルギーミックスを模索している最中です。当初、再生可能エネルギーには、次世代のエネルギーとして多大な期待が掛けられ、制度の後押しもあって強く普及促進がなされました。しかし昨今では、太陽光発電設備への偏った開発意欲の結果、電力受益者への急速な負担増加への懸念や、送電インフラの再エネ電源への対応の必要性などから、FIT の制度面、運用面での変更が検討されている状況です。

こうした状況の下、当社グループでは新規の発電設備の開発には慎重に取り組んでまいりましたが、

木質バイオマス発電には固有の意義が有るものと考え、この度の決定に至りました。まず、出力が極めて安定した通告電源であり、運用としてはベースロード電源であること。次に、木質燃料の購入・消費を通じて、林業・製材事業者、廃棄物業者、運送業者など、多岐にわたる産業振興効果があること。加えて、事業の継続を通じて地域経済に雇用や産業振興機会を創出する効果が期待されます。また当然ですが、再エネとして、純国産の CO2フリーの電気を供給するという本来の意義を備えた事業です。

以上のような意義、目的を実現するために、当社グループでは、この度の発電設備の開発に際しまして、白河、日田の既設設備に加え、建設中の豊後大野の経験を踏まえ、更に木質燃料に適した運用効率の高い設備を完成させる事を目的として当事業を推進してまいります。

また、当該発電事業の推進に伴い固定資産の取得等、重要な事項が決定された場合は速やかにお知らせいたします。

3. 事業及び設備の概要

【事業会社の概要】

会社名	アールイー鹿沼株式会社
所在地	東京都中央区八重洲2丁目7番12号
代表者	代表取締役 森 広器
資本金	100万円
資本構成	株式会社ファーストエスコ 100%
設立年月日	平成24年6月
事業内容	木質バイオマスによる発電及び電力卸売事業

【木質バイオマス発電設備概要】

設備名称	壬生発電所(仮)
立地場所	栃木県壬生町
ボイラー蒸発量	約75ton/時
定格出力	18,000kW
年間稼働日数	330日/年(24時間稼働)
年間発電量	約120,000MWh/年(送電端)
投資予定額	約90億円

4. 今後の見通し

発電所建設の開始時期は平成29年春を目途に計画を進めております。また発電所の竣工、及び事業の開始時期につきましては平成31年を予定しております。なお、本件決定に伴う当連結会計年度の当社グループ業績見通しに与える影響はございません。

以上